

子育て支援についての学生の意識

—双子の子育て，児童虐待，朝食欠食に着目して—

Students' Attitudes toward Child Care Support; Focusing on Raising Twins, Child Abuse, and Missing Breakfast

齋藤 汐梨† 村石 一步† 中川 恵美† 千田 眞喜子†
Shiori Saito Ippo Muraishi Megumi Nakagawa Makiko Senda

1. はじめに

現代では，0歳～14歳の年少人口及び15～64歳の生産年齢人口の減少と65歳以上の老年人口の増加が見られる（厚生労働省，2015）。2019年の出生数は過去最少（86万人ショック）2019年の合計特殊出生率は1.36（前年より0.06ポイント減少）で，少子化が進んでいて（厚生労働省，2020a），社会に多大な影響を与えている。

少子化により，厚生労働省では，表1に示すような子ども・子育て支援の事業に取り組んでいる（厚生労働省，2021）。

そこで，子育て支援について，問題点を洗い出し，対策を提案したい。今回の研究では，子育て支援について，児童福祉の立場から，次の3つのテーマに着目し，その問題点を洗い出し，対策を提案することを目的とした。まず，双子の子育てについては性格の視点から，次に，児童虐待については家庭の支援から，最後に朝食欠食については睡眠との関係から検討する。

2. 研究方法

テーマごとにまず文献調査を行い，その後，コロナ禍に配慮（紙媒体のアンケートより感染予防対策になる）して，google formsを利用してアンケート調査を行った。QRコードを示し，スマートフォンでアンケートに回答してもらった。アンケート文と人数を表2に示す。性格の視点からの双子の子育てについては表2の1と2で，家庭の支援からの児童虐待については3と4で，睡眠と朝食欠食につ

ては5と6で示す。

アンケート調査期間 2021年4月（予備調査は2020年12月），アンケート対象者は，児童福祉を学ぶ学生である。解析ソフトはKH coder（樋口，2014）を用いた。

解析手法は，テキストマイニング手法で，共起ネットワークによる内容分析及び対応分析を行った。共起ネットワークとは，共起する語を線で結んだもので，共起とは同時に使われている状態である。作図条件は，共起関係を上位60以上，出現回数が多い語ほどは大きな円で示し，語と語の結びつきが強いほど太い線で示した。

3. 結果と考察

テーマごとに考察する。

3.1 双子の子育てについて性格の視点からの検討

まず，「同時に生まれる双子でも，姉（兄），妹（弟）が一応決められますが，その順番によって性格に違いがあると思いますか。」に関しては，性格に違いがあると思った人（はいと答えた人）は75%で，そうは思わない人（いいえと答えた人）は25%であった。

その理由については，外部変数を「ある」と「ない」として共起ネットワーク図を示す（図1）。語数は38，共起線数は46，密度は0.065であった。「違いがあると思った人」は，「対応や立場が異なる」，「育て方が違う」，「上の子は責任があるという考えで育てられる」と考えていた。違いがないと思った人は，様々な意見があったので多く使われた語が少なかったが，概ね「産まれた順番は影

表1 少子化による厚生労働省の子ども・子育て支援の事業

地域子育て支援拠点事業	放課後児童育成事業等
利用者支援事業健全	乳幼児と中・高校生のふれあい事業
乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）	ファミリー・サポート・センター
養育支援訪問事業	児童館・児童センター等
児童委員・主任児童委員	健全育成のための活動プログラム
地域組織活動	子ども・子育て支援体制整備総合推進事業
児童手当制度	子育て応援特別手当
児童福祉文化財	宅幼老所の取組
各都道府県の子育て支援事業	児童福祉行政指導監査等

厚生労働省（2021）を基に著者らが作成。

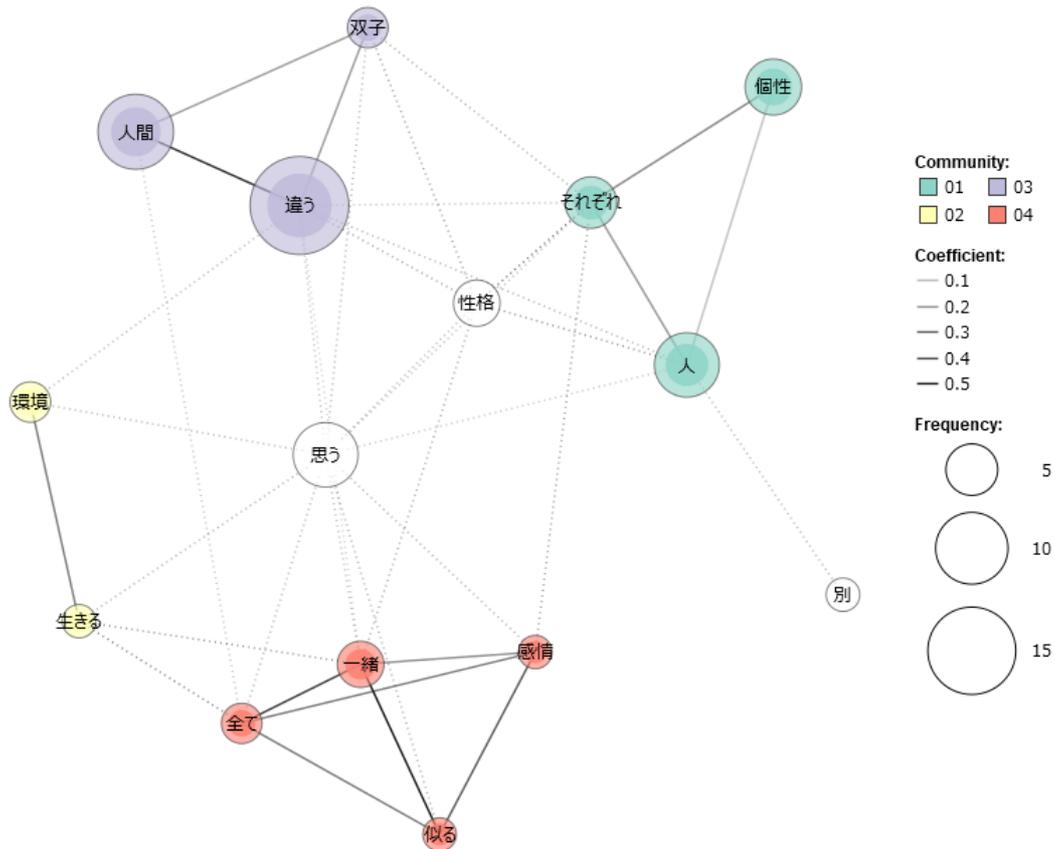


図2 「双子の性格がなぜ違うのか」の理由について、語と語の共起ネットワークの結果

響しない」と考えていた。

次に「双子の性格がなぜ違うのか」の理由について、語と語の共起ネットワークの結果を図2に示す。語数は15、共起線数は39、密度は0.371、グループ数は4、ツリー数は1であった。

図から、双子の性格がなぜ違うのかの理由として、次の4つが考えられる。

- i) 双子でも違う人間で違う性格であること。
- ii) 人それぞれの個性や性格があり、別の人間であること。
- iii) 生きている環境が違うこと。
- iv) 全て一緒にいて外見上似ているが、感情がそれぞれ違うこと。

以上から、双子には性格の違いに配慮した子育てが重要であると示唆される。その対策としては、双子の子育てについては、保護者に性格の違いが出てきて個性豊かになることを、子どもが生まれてすぐの時期に伝えることが必要である。

3.2 児童虐待について（家庭の支援からの検討）

「なぜ児童虐待がおこるのか」の理由について語と語の共起ネットワークの結果を図3に示す。語数は36、共起線数は61、密度は0.097、グループ数は5、ツリー数は2であった。

大きいほうのツリーはグループが4つであることから、なぜ児童虐待が起こるのかについては、次の4つの理由が読み取れた。

- i) 自分が思うように子どもの教育できないこと。親がどのように教育を受けてきたに左右されることか。ストレスが多く、サポート等が足りない社会であること。
- ii) 子育て（育児）に悩みや不安を抱えていること。
- iii) 親にストレスが溜まっていて、最終的に家族や子どもがストレス発散の場所となっていること。
- iv) 大人が思い通りにならない、理不尽だと考えて子どもに当たると思うこと。

次に、小さいほうのツリーはグループが1つで、次のことがわかった。

- i) 周りの環境・貧困問題のため、精神的にも経済的にも余裕がない気持ちを、周りの家族に理解してもらえない。

次に、「なぜ児童虐待者に実父より実母のほうが多いのか」の理由についての語と語の共起ネットワークの結果を図4に示す。語数は23、共起線数は64、密度は0.253、グループ数は4、ツリー数は1であった。

図から次のことが分かった。

- i) 実母は子どもと一緒にいる時間が長い。
- ii) 実母は産んだ責任があり子育てを行っている。
- iii) 女性には、家庭と仕事の両立や、母親と子供が関わるが多く、ストレスが溜まる。
- iv) 母親に育児が任せられ負担が多い。

以上から、児童虐待予防に関しては保護者、特に実母の支援が必要である。実母の支援だけでなく、“実母も含め家庭を支援”していく対策をとることが望まれる。

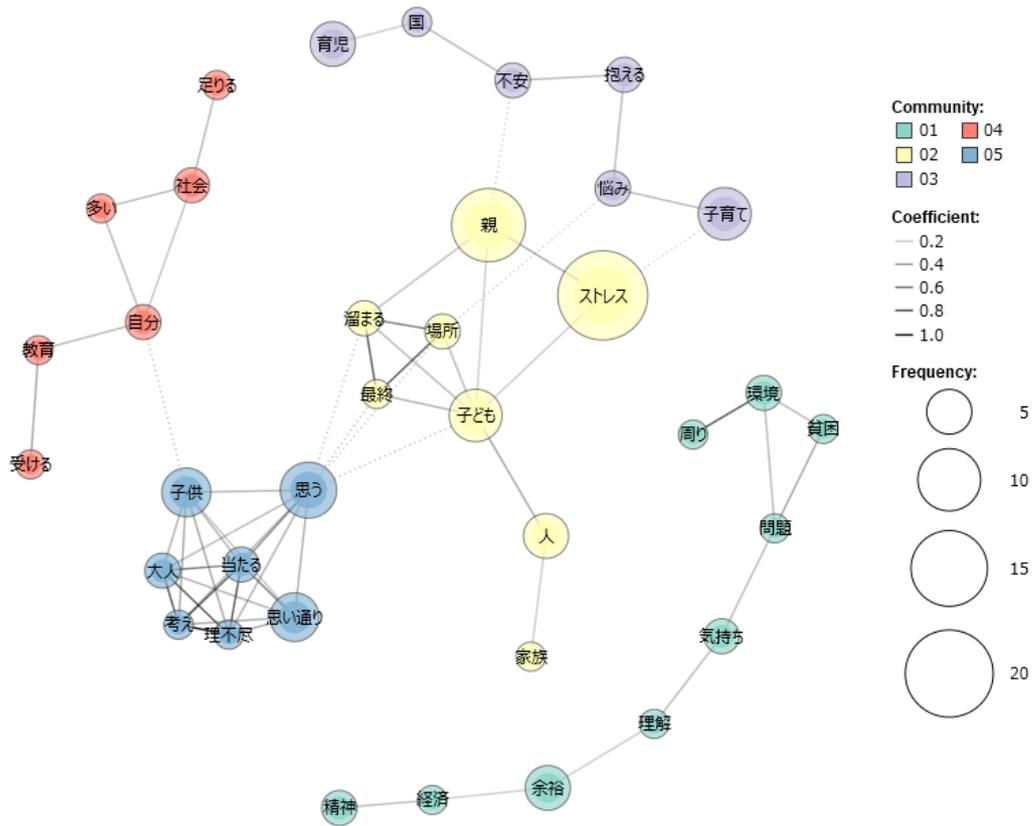


図3 「なぜ児童虐待がおこるのか」の理由について語と語の共起ネットワークの結果

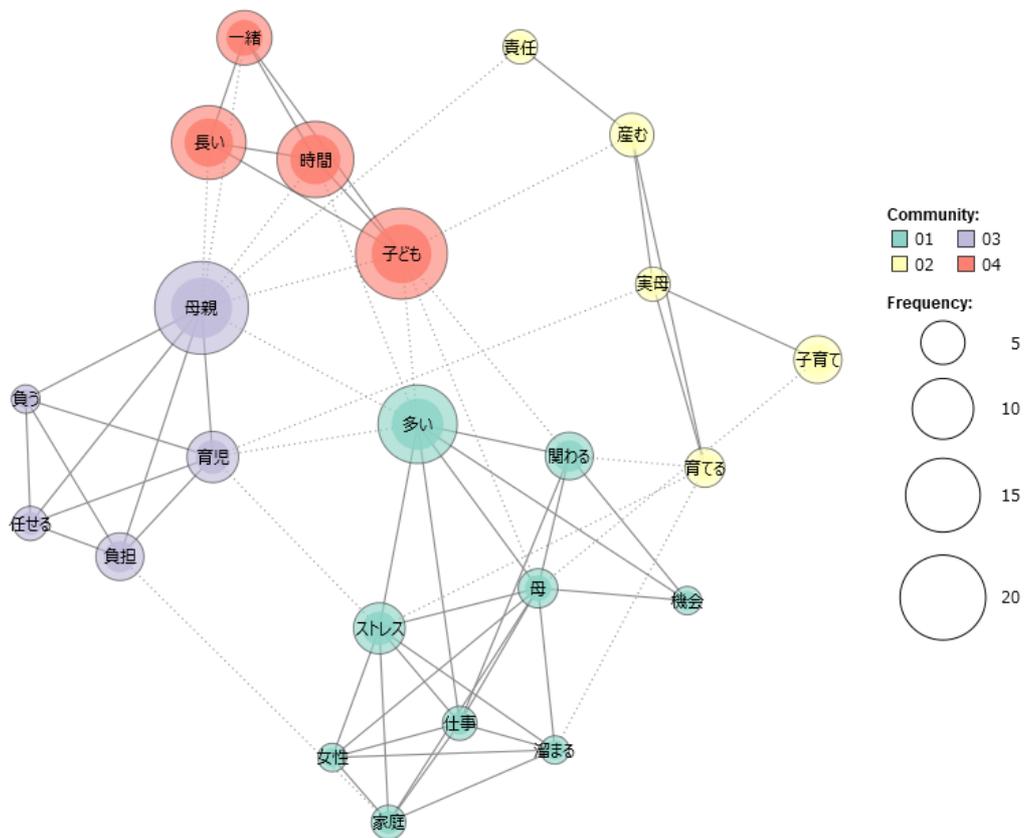


図4 「なぜ児童虐待者に実父より実母のほうが多いのか」の理由についての語と語の共起ネットワークの結果

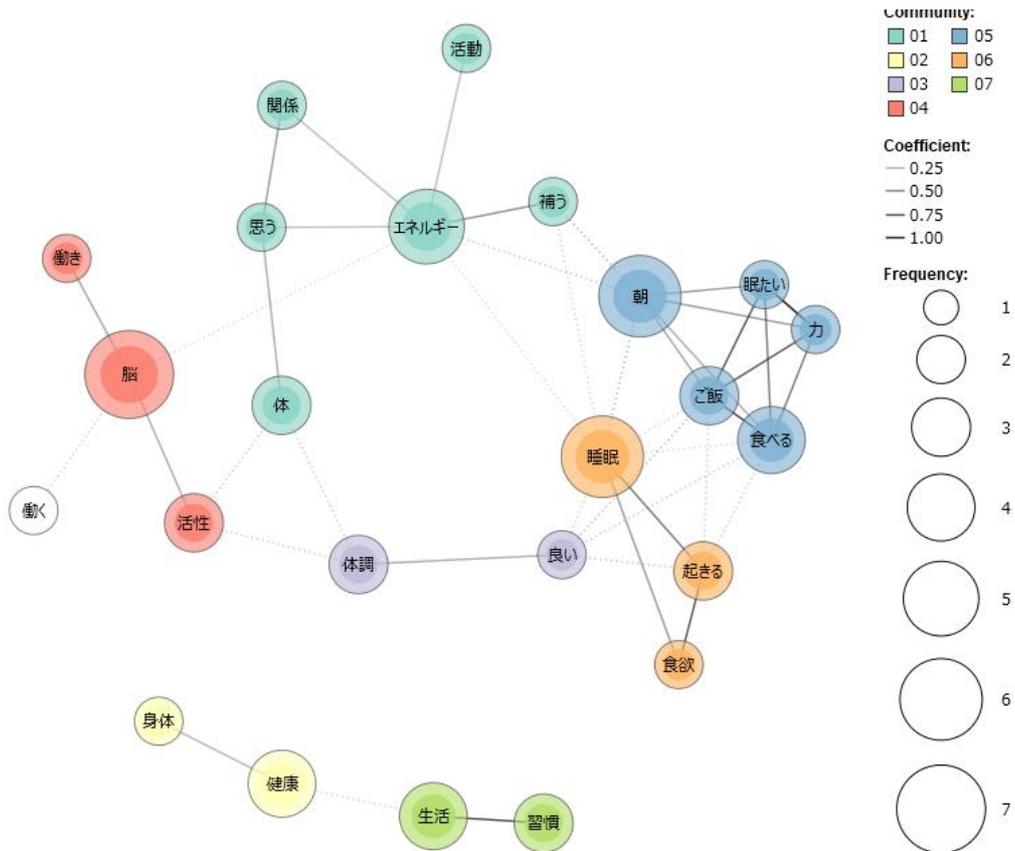


図5 「睡眠と朝ごはんはどのような関係があると思いますか。」の理由についての語と語の共起ネットワークの結果

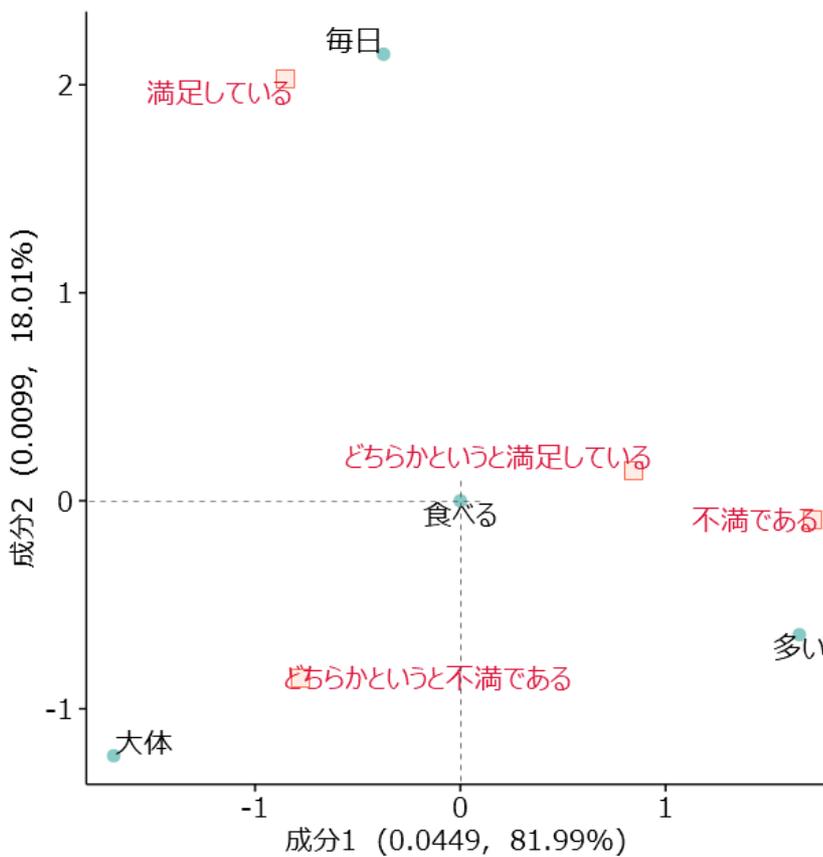


図6 「朝ごはんは毎日食べていますか。」と睡眠満足度との関係 (対応分析結果)

3.3 朝食欠食について（睡眠との関係）

「睡眠と朝ごはんはどのような関係があると思いますか。」の理由について、語と語の共起ネットワークの結果を図5に示す。語数は24、共起線数は43、密度は0.156、グループ数は7、ツリー数は2であった。

大きいほうのツリーはグループが5つであることから、次の5つのことが読み取れた。

- i) 良い睡眠の後に朝食をとると脳を活性させる働きがある。
- ii) 朝食は、睡眠で使ったエネルギーを体に補うと思う。
- iii) 朝に眠たいと、ご飯を食べる力がない。
- iv) 良い睡眠で起きると食欲が起きる。
- v) 睡眠が良いと体調がよい。

さらに、小さい2つのツリーからは、次のことが分かった。

- i) 健康な身体になる。
- ii) 生活習慣が良いと健康になる。

次に、「朝ごはんは毎日食べていますか。」と睡眠満足度との関係（対応分析結果）を図6に示す。

次の傾向があると考えられる。

- i) 睡眠満足度が高いと毎日朝ご飯を食べている。
- ii) 睡眠満足度が低いと毎日ではなく、大体食べている、あるいは食べていることが多い。

以上から、朝食欠食に睡眠不足の関与があると思われる、対策としては、健康の保持増進のためにも、睡眠不足・朝食欠食のような生活習慣の改善を、子どもや家庭に知らせることが必要である。

4. 総括

子育て支援のうち、双子の子育て、児童虐待、朝食欠食の3つに着目し、児童福祉を学ぶ学生の意識調査を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

- ・双子には性格の違いに配慮した子育てが重要である。
- ・児童虐待に関しては実母の支援が必要である。
- ・朝食欠食に睡眠不足の関与がある。

そこで、対応策としては、次のことがあげられる。

- ・双子の子育てについては、保護者に性格の違いが出てきて個性豊かになることを、子どもが生まれてすぐの時期に伝える。
- ・児童虐待に関しては、実母も含め家庭を支援していく対策をとる。
- ・睡眠不足・朝食欠食のような生活習慣の改善を子どもや家庭に知らせる。

5. 今後の課題

今後はこれらの結果も踏まえ、子育て支援の具体的な対策について検討する。また、コロナ禍における子育て支援の対応方法も課題として進めていきたい。

6. 参考文献

樋口耕一（2014）社会調査のための形容テキスト分析，ナカニシヤ出版，pp.233.

厚生労働省（2015）平成27年版厚生労働省白書，

<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/15/dl/1-01.pdf>,
（参照日：2021/07/01）。

厚生労働省（2020a）令和元年（2019）人口動態統計（確定数）の概況，https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei19/dl/02_kek.pdf（参照日：2021/07/01）。

厚生労働省（2020b）平成30年度福祉行政報告例の概況，<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/gyousei/18/index.html>（参照日：2021/07/01）。

厚生労働省（2021）子ども・子育て支援，https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/,
（参照日：2021/06/18）。